

特集] ポラン広場東京の集い 2017

はじめる“ディープオーガニック” ポラン広場東京の集い 2017 閉幕！

2月18日、東京・三鷹産業プラザにて、「はじめる“ディープオーガニック”ポラン広場東京の集い 2017」が開催されました。有機農業研究者の西村和雄氏による講演と参加者による討論会の二部制で、全国の生産・製造者、販売者、そして消費者合わせて150名の来場者が集結。ディープオーガニックについて、熱い議論が交わされました。その概要を次ページよりお伝えしていきます



共に未来へ歩もう！ 真の有機・自然農業の達成に向けて

今後もっと具体的に、いまある有機農業のレベルを上げていきましょう！
2000年に施行された有機 JAS 認証制度は有機農業の社会化には役に立っています。ですから消費者の方もわかりやすくなったと思います。ですがそこには、真のオーガニックという点から考えると生産面で欠けている大きな問題があります。使用禁止農薬・資材以外であれば使ってもいいと、生産者それぞれの自助努力に任されている有機認証制度の現状から歩を進め、生産者だけではなく、製造者も流通者も、それからそれを消費する方も含めて、一緒になって、こういうことができる、こういうことをする、とういうふうこれから未来へ歩みたいという考えであります」

(NPO法人ポラン広場東京 代表 神足義博／開会式にて)

CONTENTS

特集 ● ポラン広場東京の集い 2017 ● キッズウィークエンド ● 3.11 映画祭マーケット ● 新規会員・寄附者など ● 活動予定

【第一部】 西村和雄さん講演

西村さんの二時間に渡る講演は、自身の多岐に渡る知識や経験を礎に、有機農業について分かりやすく学ぶことの出来る創意にあふれるものでした。その一端を紹介します

■有機農業の意義とは

【西村】生物は、物理や化学、科学の寄せ集めでは説明できない。なぜなら、生物は意思を持っている存在で、生きている存在だからです。そして、その生物が集まっている世界が生態系であり、別の言い方をすれば環世界。環世界というのは、ユクスキュルという生物学者が提唱した概念で、生物には自分が交合する範囲がある。それは、木でも草でも、人間でも、昆虫でも、鳥でも、すべての生物がそれぞれ独自に重なっている。それが、この世界を作っているんだ」という考え方です。だからその影響の範囲を人間中心に考えずに、他のひとらも一緒に考えよう、というのが有機農業の世界なんですよ、という風に言い換えてもいいかな、とわたしは思っています

—ここで説明された視座を持って有機農業を行っていくことが、持続可能な食糧生産体系を作ることになります。そしてそれこそが資源枯渇問題や環境問題を目前に控えたわたしたちに出来ること、しなければならないことなのです

■有機農業とは？～有機農業の定義について～

—有機農業の技術的な定義がなされてこなかったことが有機農業の農法の確立を疎外し、ひいては新規就農者、有機農業へ移行する農家の方を困らせてきたことを憂い、西村さんは自ら定義されました

【西村】農地および農地を取り囲む周辺の自然生態系に賦存する自然資源（土壌中の生物。土壌及び有機物と地上の生物など）を、有効かつ効率よく利用することによって、作物生産を可能にする農業形態だというのが有機農業の話です。だからその目的は、薬物を使わずに病虫害から作物を防御するか、作物自身の抵抗力を高めて、耕地生態系が自律的に機能するような栽培・圃場管理などの方策を構築して、持続可能な農業生産をしようとするにある。要するに、自律的というのは、自分で勝手にやるもの、自律神経と一緒にです。自分で自分をちゃんとコントロールしてくれる。それが、本当の有機農業だと思っています。したがって、耕地生態系の自律的機能を疎外、あるいは攪乱するような合成化学物質である農薬類や化学肥料は、その使用を一切禁ずる。これが、農薬と化学肥料を使っ

てはいけない、ということの本当の意味なんですよ
有機農業には三つあります。一つは、賢材依存型」化学肥料の代わりになるものを入れなければ採れない。収量が



投与型」肥料をかなり減らす。そうして健康に育つというわけです。もっと減らした三つ目が「低栄養成長型」という風に言ってます。かなり栄養を落としてもリンも窒素も勝手に雨に混じって降ってきます。それで、勝手に作物が採れるとわたしは思っています

—有機農業は、三つ目の「低栄養成長型」が一番理想とする形であると西村さんは話しています

■自然を観察せよ

—西村さんは、自然を見よ。その中には有機農業の学べきヒントが隠されている。それをどう読み解き、有機農業の技術的な工夫に生かすのか、念入りに自然観察を」という露木裕喜夫さん「有機農業の第一人者で197年に有機農業の一応の定義が決められた会の参加者でもある」の言葉を胸に、自然に対して真摯に向き合ってこられました。その膨大な観察の一例をここでは紹介します

【西村】二つのキャベツがあります。何も食われていない立派なキャベツと、虫に食われている貧弱なキャベツ。この違いは何なのかというと、健康なキャベツは食われないんです。これには必ず原因があります。作ってる人に聞いたら、全部同じように作ってるつもりなのに、と言っていました。わたしの勝手な推測ですが、苗を植えたときに根腐れになったんだと思います。やっと根腐れから回復して、さあ伸ばしていこうと思ったとき、もう周り中のキャベツは生長していて、どこにも伸ばすことができなかった。そのストレスで虫が食ったんだとわたしは推測してるんです。理由はたったこれだけなんですよ



【第二部】参加者との質疑応答

全国の生産者からこれまでの自身の体験の話がされたり、活発に質問・意見交換が行なわれました。また、消費者からは「有機農業/自然農法を始めたきっかけを教えてください」という質問もありました

■ 50年以上自然農法を続ける青森・三上さん

【三上】青森県でお米、大豆、小麦、にんにくと少しの野菜を作っています。昭和37年くらいに自然農法に出会い、自然農法を始めました。わずか5アールからの挑戦で、少しずつ面積を広げてきました。最初は水稻だけでした。お米は、米ぬかともみ殻とくず大豆などを醗酵させて作ったものを田んぼに返すだけで、動物性の堆肥などは一切使用せずに、畑で穫れたものを畑に返すという考え方でずっと作ってきました

お米を作った後は大豆を作って、大豆の後は小麦を作っています。以前、大豆の後にすぐお米を作った時に、湿度の高さなどが原因で大豆の窒素分が高いからかで病気が出てしまいました。その後、小麦をはさむようになりました。私が最近思っているのは、オーガニックとか有機農業とか認証を取らずに簡単にうたってHPなどに載っているのを見かけるので、そこらへんを勉強したいと思い今日は来ました

【神足】小麦は、国内の生産量が全体の15%しかありません。そのうち有機小麦はほとんどありません。三上さんのところでは麦を作るのが目的ではなく、耕作を続けていく時に麦が必要だったという逆転ですね。その麦が加工原料として

お醤油などに使われていきます。お醤油屋さんのほうも、有機の小麦を使うことでオーガニックの醤油を作ることができるということで、良い循環になりますね

■ 有機農業・自然農法を始めた理由は？

【澤村】生態系の変化です。海も畑も生き物が本当に減りました。なぜかと考えると、今、日本の農産物が、単位面積あたりの収量からすると世界のトップレベルになりました。その技術の革新はすごいものがあります。でもその伸びてきた分だけ使ったのは何かというと農薬と化学肥料。日本はもっと環境汚染が進むと思います。だから我々は次の世代まできちっと受け継がれる生態系・環境を守っていかないと、あなたたちが20年30年後生活していくときに、あなたたちの子どもが本当に安心して生きていける、食べていける流れ・社会を作らないと、このまま日本が進んだらおかしくなっていると思います。そういう思いでやっています

【神足】レイチェルカーソンの『沈黙の春』という本の中で、DDTの農薬の使用について警鐘がなされました。今、澤村さんが言われたように、このままいくと生態系がだめになりますよ、と。それからDDTは禁止されました。そして今、環境にやさしい、人にやさしいという触れ込みで「ネオニコチノイド」という農薬が出回っています。去年日本の研究で人体からも有意に数値が出ているということで、フランスでは来年全面禁止になります。一方日本ではまったく野放し。一般の野菜にはかなりの量が出ています。それが体に蓄積するので研究した女性はやはり避けるべきではないかと言っています。そんな風に皆が気づき始めたわけです



熊本肥後あゆみの会 澤村 輝彦／青森瑞宝 三上 裕恵／長野 吉沢 文隆／山梨 立野 健／静岡 依田 健太郎／自然農法国際研究開発センター 巴 清輔 敬称略)

【神足】2000年の有機JAS制度のもと、大半が資材依存型の有機農業で進んでいる現実があります。これを一層よいものにしようという西村先生の考えとともに、ポランはその方向に進んでいきたいと思っています。ですが、西村先生が言われたように自然農法というものは定義がはっきりしていません。それを技術の部分について、先生と皆と話し合いをしながら明らかにできるように進めたい。今日はその概要を話しました。私は技術というのは人間が作り出したものとは思っていません。技術というものは自然の中に織り込まれて

いて、それを人間が発見することで自分たちの益にしているわけです。ですから西村先生が言う低投与、低栄養成長型が、技術ではなくて、すでにあるものを生態系から掘り起こすことだということに納得できるのです。西村先生と一緒に歩むことで有機農業のアートが確立できるのでないかと思っています

【西村】今日皆さんからお聞きした話や私がここで話したことだけで有機農業はできるものではないとは思っています。なぜかという、有機農業あるいは農業に関してわからないことが山ほどあり

ます。でもその山ほどの中のヒントは植物が持っている色々な能力をどうやって「おや？」と気がつくかどうかだと思います。私はそこに疑問を持ったからこそ、ここまで40年以上有機農業に関わってきました。私がいろいろ投げかけることを、皆さんが温めて次の世代の有機農業としてバトンタッチして欲しいなと思っています



キッズウィークエンド

協賛・寄付金を募集しています

～あなたの東北・福島に寄せる気持ちを形に

原発震災により、外遊びや運動などに様々な制約を受けている福島の子どもたちを、山梨県北杜市や東京都青梅市に招待し、思い切り楽しく遊んで英気を養ってもらおうバスツアーとして、2012年4月から春と夏に開催している「キッズウィークエンド～福島子ども保養ツアー」。その第11回目を4月21日から3日間にわたり、ブンブンの会・アースデイ東京と共催で開催します

運営はボランティアと寄付金によって支えられています
ご協力いただける場合、下記の口座までご送金ください

●振込先 ゆうちょ銀行振替口座 00150-3-324022

楽天銀行 マーチ支店 普通 7026518

りそな銀行 東青梅支店 普通 4403362

●口座名義 特定非営利活動法人ポラン広場東京

※振込の際にお振込名義人欄に「キッズ」と追記していただくか、別途ご連絡をいただくと幸いです。領収証をご希望の場合は事務局までご一報ください

【事務局からのお知らせ】

通常総会開催のご案内

第9回通常総会の日程が決まりました

日時/5月20日(土) 場所/三鷹産業プラザ

※詳細は決定次第、会員の方々に改めてご案内します

活動予定

●4月22日(土)・23日(日) アースデイ東京 2017～ファーマーズガーデン「春」@代々木公園

●4月21日(金)・23日(日) キッズウィークエンド@青梅11～福島子ども保養ツアー

会費徴収のご案内

新年度に当たり、年会費更新についてご案内いたします

●年会費 正会員(個人) 10,000円

正会員(団体) 20,000円

賛助会員(個人) 5,000円

賛助会員(団体) 10,000円

※請求書をご希望の場合は事務局までご一報ください

●振込先 ゆうちょ銀行振替口座 00150-3-324022

楽天銀行 マーチ支店 普通 7026518

りそな銀行 東青梅支店 普通 4403362

●口座名義 特定非営利活動法人ポラン広場東京

●払込期日 2017年5月31日(水)

第4回 3.11映画祭

三三三市×3.11映画祭マーケット

@アーツ千代田

2017.3.12(日)

3.11映画祭は、毎年3月11日前後にアーツ千代田 3331をメイン会場に全国のサテライト会場で各々の有志の自主上映会を同時期開催し、社会へのアクションとする活動です

ポラン広場東京では、東日本震災復興支援に関連した商品などの展示販売が行われる「三三三市×3.11映画祭マーケット」に出店しました



会場では、矢陽の蓋 監督:佐藤太、大地を受け継ぐ 監督:井上淳一、日本と再生 光と風のギガワット作戦 制作・監督:河合弘之などが上映されました。日本と再生 光と風のギガワット作戦の上映後には、鎌仲ひとみ 映画監督×藤川まゆみ(NPO法人上田市民エネルギー代表)



のトークイベントが開催され、震災から6年が経過した今、新しい未来を作り出す「再生」自然エネルギーの「今」などについて語られました

【活動報告】

活動短報

2月 2日 加賀の井酒造 株に糸魚川火災再建義援金をお届け
18日 ポラン広場東京の集い2017

3月 12日 第4回 3.11映画祭 三三三市×3.11映画祭マーケット

【新規会員・寄附者など】

ご支援・ご協力ありがとうございました

(2017年1月1日～2月28日 敬称略)

新規会員

- 正会員(団体) 株 瑞宝(青森県)
- 賛助会員(個人) 尾田川勝雄(岩手県)
- 賛助会員(団体) 有 三里塚物産(千葉県)

ポラン基金

株 瑞宝(青森県)、遠藤みゆき(東京都)ポラン広場の宅配会員の方々
※ポラン基金にたくさんの方々のご協力をいただいております。紙面の都合上、全員のご紹介をすることができませんが、機会を設けてご紹介させていただきます

キッズウィークエンド寄付金

株 ナイアード(東京都)

編集後記

今号のニュースレターを発行したら、次は集いの内容を全てまとめた報告集の制作に入ります
がんばります!

(株)

じむきょく
NOTE



ポラン広場東京の集いにご支援・ご協力をいただいた皆様、大変お世話になりました。運営面では行き届かない点も多々あったかと思いますが、多数の参加者を迎え、実り多い有意義な集いとなりました。ありがとうございました
(株)

NPO法人 ポラン広場東京
ネットワーキングニュースレター
Vol.022

2017年4月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 ポラン広場東京
〒198-0052 東京都青梅市長瀬4-393-11
tel.0428-22-6821 fax.0428-25-1880



ポラン広場東京 Facebook
http://www.facebook.com/polantokyo